

# 福島・いわき・小名浜支援レポート

浜通り医療生協・小名浜生協病院支援活動報告(全日本民医連) 2011年4月27日(水) No.3

## 4月27日(水)の活動

◆浜通り医療生協組合員訪問による震災後の無事確認行動 + 困りごとお助け隊

◆行動の概要

午前:	行動参加:	21人(職員8人、理事・組合員2人、支援9人、ボランティア2人)
	訪問件数:	174件
	対話件数:	103件
午後:	行動参加:	19人(職員8人、理事・組合員1人、支援者8人、ボランティア2人)
	訪問件数:	162件
	対話件数:	102件
	片付援助:	2件 → 倒壊した塀の撤去作業。倒れたタンス起こし。

床上・床下浸水した地域、地震による家屋被害が目立つ地域を訪問。組合員さんとの会話ははずむが、心身の疲れがたまっている様子が会話の中からうかがえる。高齢者が多いため、ブロック塀や畳など大きく重いものには、いまだ手が出せない方もいる。



## ◆◆◆ 訪問活動トピックス・被災者の声 ◆◆◆

- ◆下神白三崎地区: 高台にあり津波より、壁の亀裂や瓦被害など地震による家屋被害が目立つ。坂の上で車が入れない場所では定期的な訪問や水の配達なども必要と思われる。
- ◆古湊地区: 津波により床下浸水5軒、床上浸水3軒。片づけの手伝いが必要と思われる。
- ◆竹町地区: 津波は床下5cmくらい。原発事故による放射能汚染が心配で、庭の花を家の中に飾っていいか、洗濯物は外に干していいか、水道の水は普通に飲んでいいかなど質問される。放射能に対する簡単なパンフがあればいい。
- ◆定西地区: 津波の被害は少ないが、小名浜港にある水族館アクアマリンふくしまの魚やドラム缶が庭先に流れ着いていたりして、津波が家の前まで到達していた地域。訪問と持参した支援物資に感謝の言葉をいただいた。
- ◆横町地域: 高齢独居の組合員が多く、体力的・金銭的・精神的に不安が強くケアが必要。借家住まいの方の風呂場の壁が落ちてしまい、隣家とのプライバシーが守られず。配湯も断たれており入浴もできない。
- ◆栄町地区: ほとんどが床上浸水。片づけは自力で進めているが、高齢者で疲れきっている様子。めまいや認知症の進行も見受けられ、定期的な訪問によるフォローが大事。
- ◆沖見・辰巳・元分地区: ほとんどが床上浸水。直接症状として心身に出ていない様子だが、大きな疲れを感じている方が大勢いた。今は浸水の後片付けで緊張しているようだが、一段落すると疲労感が増すと思うのでメンタル面でのフォローが必要。
- ◆隼人地区: みなさん元気で安心したが家屋はどこかしらダメージを受けている。一人暮らしの高齢者が多かったので、もっとゆっくりと話を聞く機会をつくる必要があると思う。みなさん話したい様子。
- ◆吹松地区: 直接的な被害は少ない地域だが、一人暮らしの女性が多く、訪問はとても喜ばれた。みなさん気丈に振舞っていたが、話を聞くと不安や身体的な不調を訴える方が多かった。
- ◆古湊地区: 床下・床上浸水などの被害が多かった。一人暮らしで高齢のため、海水で濡れた畳を1か月以上、交換できずにいる方がいたので早急に手を打つ必要がある。
- ◆小屋ノ内地区: 海岸に近いので津波の被害を受けている。持参した支援物資の水やマスク、湿布がとても喜ばれた。支援物資はまだ沢山あるので、もっと地域の人たちや病院に来る患者さんたちにも配布できればいいと思う。
- ◆鳥居下・林ノ上地区: ライフラインは回復しているが、家の瓦が落ちていたり、塀が傾いたり倒れていたり、壁にひびが入っているという家がほとんどだった。高齢のため倒れた門柱の瓦礫を片付けることができないという方がいた。

【東京民医連事務局短信】 ▼4/27午前10時半～佐藤(浜通り医療生協組織部)と吉田(東京民医連事務局)・田村(健全会企画部)で打ち合せ。4/28～4/30の行動内容を確認した。▼訪問の結果、自宅の片づけなど手伝いが必要な人や、不在組合員で全壊家屋の貼り紙に書かれた連絡先への無事確認フォローについて検討。▼4/28に『組合員さんの困りごとお助け隊』を3チーム組織し、障子貼り隊と、風呂場の倒壊壁撤去隊、倒壊門柱をどけ隊を派遣することにした。福島民医連から医学生4名と担当者2名が来るので、『お助け隊』を担当してもらうこととした。(田)